平成２７年８月２８日（金）　　京都市立洛風中学校　Ｎｏ．５

# 洛風だより・ほかほか通信
## ～保護者のみなさまへ～

## 夏休みが明けて

夏休みが明けて、一週間がたちました。夏休み中の子どもたちのお家での様子はどうだったでしょうか？「夏休みのかけら」（しおり）には、中学生になって少し逞しくなった１年生、日頃体験できないことにチャレンジできた２年生、勉強をがんばった３年生の様子が記されていたりします。なかには、親としてもう少しがんばれないのかと思う気持ちもありました。でも、子どもたちは、自分なりに「夏休みにしか味わえない夏休み」を過ごしていたようですね。

## 図書コーナーで、素敵な本をみつけました

**「十代に贈りたい心の名短歌１００」**（田中章義著　ＰＨＰ研究所発行）という本から、親と子の思いを表した短歌を紹介したいと思います。

**バンザイの姿勢で眠りいる吾子よ　そうだバンザイ生まれてバンザイ**

俵　万智　「生まれてバンザイ」より

**そんなにいい子でなくていいからそのままでいいから**
**おまえへのままがいいから**

小島ゆかり　「獅子座流星群」より

生まれてきてくれただけで、「ありがとう」。「ありのまま」を受け入れてもらえる子どもの笑顔が、親の幸せ。そんな親と子の気持ちが、とても素直に表現されていると思いませんか。

**のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ「まっすぐ？」**
**そうだ、どんどんのぼれ**

佐佐木幸綱　「金色の獅子」より

まっすぐに坂道を登っていくように、まっすぐ、逞しく、自分の足で生きていってほしいと願う気持ち。どちらかというと、父性を感じる歌のように思います。

**学校へいじめられに行くおみな子の髪を　きっちりと編みやる今朝も**

花山多佳子　「草舟」より

この歌は、すごいですね。子どもが痛いとき、母も痛い。子どもが苦しい時、母も苦しい。それでもともに「逃げない」ことを選択して、今日もきっちりと髪を編んであげる。この強さは、母性の本質かもしれません。

**父母は梅を見ており　われひとり梅のむこうの空を見ている**

沖　ななも　「衣装哲学」より

幼いころは、子どもは親と同じものを見ている。しかし思春期を迎えるとちがってくる。梅の向こうに広がる空を見ている。自分の未来を見つめ始める。それが子どもの成長ですね。

中学生ともなると量高くなった子どもを見て、夏休み中、時には「うっとしいな」と、ふと思ってしまうことがあったかもしれません。でも、この夏休みも無事に過ごしてくれた子どもたち。「子は宝」ですね。また、子どもたちも国語の時間に俳句や短歌に取り組んでいます。たまには、俳句や短歌の世界にふれてみることもいいものですね。